

第34回“北陸信越地区素粒子論グループ合宿”のご案内*

Final Circular

2006年5月26日

北陸合宿に参加いただきありがとうございました。

日程 5月26日(金) — 28日(日)

場所 国立妙高青少年自然の家 <http://myoko.niye.go.jp/>
〒949-2235 新潟県 妙高市 大字関山 6323 番地 2
TEL : 0255-82-4321 FAX : 0255-82-4325

注意

- 車は第2駐車場に駐車して下さい。旅費補助の計算に、車の台数を把握する必要があります。
各 driver は、受付までお知らせ下さい。
- 宿泊棟「ペルセウス」の位置は施設案内図（受付で配布）で各自ご確認下さい。
- 講義室内で、コーヒーなど飲み物の準備にご協力下さい。
- 子供会などの団体も滞在しています。節度のある行動をお願いします。
- 入浴可能時間は 17:30-22:30 です。
- 原則として、宿泊棟への飲食物の持ち込みは不可とされています。
- 自然の家の各部屋は鍵がかかりません。貴重品の管理は各自お願いします。
- 最終日は、朝9時までには、宿泊棟の清掃を終え、荷物を講義室まで移動してください。ごみはすべて持ち帰ってください。

講義 [26日(金) 19:00-20:00, 27日(土) 9:00-10:30, 28日(日) 9:00-10:30]

橋本 幸士 氏 (東大院総合文化・助手) 「D ブレーンと宇宙論・宇宙ひも」

D ブレーンを用いて、インフレーション宇宙論を弦理論で再構築する試みについて概観する。さらに、そこから導かれる興味深い可能性—宇宙ひもが D ブレーンであるという可能性—について、最近の研究を紹介する。

研究発表 (質疑込み 45 分)

- (1) 関戸 暢 (金沢大) 格子上でのアーベリアン射影におけるゲージ依存問題
- (2) 岡田 寛 (金沢大) Flavor 対称性と Radiative seesaw model
- (3) 高橋 亮 (新潟大) Dark energy and neutrino model in SUSY
- (4) 荒木 威 (金沢大) anomaly of discrete symmetry and gauge coupling unification
- (5) 澤中 英之 (新潟大) スタッガードフェルミオンの回転対称性と質量縮退の分離
- (6) 浮田 尚哉 (東京大) Wilson twisted mass fermion を用いた格子 QCD とその相構造

ポスター発表 (順不同) 懇親会の時間を除いて、講義室内に常設する予定です。

- 沢田 功, 石田 博明 (石川高専) 定常波内の特異な進行状態
- 長谷川将康 (金沢大) String Breaking
- 中村 悟史 (金沢大) 暗黒物質に基づく extra U(1) 超対称模型の解析
- 富田 洋 (金沢大) 長距離相互作用のあるイジング模型のくりこみ群による解析

[0]脚注: <http://muse.sc.niigata-u.ac.jp/gasshuku/hokuriku06/index.html>

	9/26 (金)	9/27 (土)	9/28 (日)
7:00		起床	起床
8:30		朝食	朝食
9:00			清掃
10:30		講義Ⅱ	講義Ⅲ
11:00			
		研究発表(1) 写真撮影?	研究発表(6) 反省会
12:00		昼食	昼食
13:30		研究発表(2)	ポスト企画
15:00		研究発表(3)	
16:00	準備 ポスター	研究交流	
16:30	受付		
17:30	夕食	夕食	
19:00	講義Ⅰ	研究発表(4) 研究発表(5)	
20:00	懇談会		
20:30	ポスター 懇親会	ポスター 懇親会	
22:30			

- 小林 玉青 (金沢大) **A Renormalization group Approach to the Critical Dissipation in Quantum Systems**
- 亀井 伸佳 (金沢大) **Gauge 不変な monopole と有限温度相転移**
- 土谷 暁人 (金沢大) **超対称標準模型における微調整問題とその解消の試み**
- 宮下 和洋 (金沢大) **有限密度南部・ジョナラシニオ模型におけるカイラル対称性の非摂動くりこみ群による解析**
- 畠山 森魚 (新潟大) **Mass Splitting of Staggered Fermion and Rotational Symmetry**
- 松浦 弘幸 (新潟大) **TBC**

懇談会 初日夜の懇談会では、以下の話題を予定しています。

- 各大学、高専を取り巻く情勢についての情報交換
- 素粒子論グループ、地方大、若手の諸問題、その他（北陸合宿の在り方など）

研究交流 (自由時間) 過ごし方の一案として、自然の家周辺のハイキングコースがあります。

ポスト企画 企画の詳細については、『別紙案内』を参照してください。

研究会報告 研究発表の各 speaker は以下まで報告をお送り下さい。詳細は後程案内します。

〒 950-2181 新潟市五十嵐二丁目 8050 新潟大学理学部 物理学科

中野 博章 tel: 025-262-6167

mailto: nakano@muse.sc.niigata-u.ac.jp

北陸合宿は京大基研から補助をいただいています（研究会ナンバー： YITP--S--06--01）。合宿から論文が派生した場合、論文で**基研へ謝辞**するとともに、以下の URL に従って**基研に報告**してください。

<http://www.yukawa.kyoto-u.ac.jp/spires/ronbun/ronadd.html>

物理教育を考える — 高大連携の在り方をめぐって —

場所：独立行政法人 国立 妙高青少年自然の家、学習室 1

日時：5 月 28 日（日） 13 時 00 分 — 16 時 00 分^[1]

講師：笠 潤平 氏（京都女子高校）

題目：「物理教育の現在の課題について」

上記の「科学教育問題」に関する講演会・討論会をご案内いたします。

『北陸合宿』は、北信越地区の素粒子論グループの研究者・大学院生が毎年五月の三日間、一同に会して、研究交流をはかる合宿です。ここ十年ちかく、この合宿の最終日（もしくは初日）に、特別企画として、地域との交流を促進し、また、地域社会に“貢献”していくために、インターネット実習や科学教育関係の懇談会などを行なってきました。

今年度は、京都・和歌山 Advancing Physics 研究会^[2]の一員でもある、笠 潤平さん（京都女子高校）をお招きし、高大連携の実践例や課題、英国やハンガリーでの物理教育と日本の現状などについての講演をお願いしました。この機会に、高大連携の望ましい在り方をめぐって、質疑応答や参加者間での意見交換を行ないたいと思います。

なお、笠さんは、今年 8 月に東京で開催される物理教育国際会議 2006（ICPE2006）の運営にも携わっており、関連するお話も紹介いただける予定です。

この企画は参加費など不要です。教育現場から多数の方々の参加をお待ちしています。

〒 950-2181 新潟市五十嵐二の町 8050
新潟大学教育人間科学部
伊藤 克美
E-mail: itoh@ed.niigata-u.ac.jp
TEL: 025-262-7146

また、以下の webpage で情報を随時、更新しています。

<http://muse.sc.niigata-u.ac.jp/gasshuku/hokuriku06/index.html>

^[1]脚注: 討論会を含む。

^[2]脚注: <http://www.ap.opal.ne.jp/>